

「安心・活力・発展プラン2005」中間見直し策定委員会発言要旨
－総合部会－

開催日：平成23年10月21日（金）13：00～15：00

場 所：トキハ会館5F カトレア

出席委員： 豊田委員 嶋津委員 高橋委員 村上委員
 矢野委員 山崎委員 由佐委員

- 社会に出て働きながら、もう一度、学びたいという人がたくさんいるのではないか。そういった人達に対し、県立大学などがもっと門戸を開いて、生涯教育と学校教育とが繋がって学べるような公開講座などができる良いのではないか。
- 先進国ではエイズは減って来ているが、日本では増えている。HIVの保有者が減らない。これは都市の若者に対するエイズ教育が徹底されていないため、なかなか根本的な解決が見えない状況である。一時期はかなり話題になったが、最近ではあまり報道されていない。継続的な取り組みが必要。
- NPOが米水津で取り組み始めた地震・津波対策のモデル事業は他の地域の参考になると思う。
- 今回の見直しでは、障がい者の就労促進にも力を入れていただいている。障がい者が就職した時に、どうやって職場に通っていくのか、不慣れな場所にどうやって行くかが問題になる。訓練をすれば一人で通えるようになるので、モデルケースなどを作って取り組んで欲しい。
- 東日本大震災も、今でこそ我々は記憶に新しく理解しているが、これが時間が経つと忘れられたりしないだろうか。防災計画の見直しも行っているが、防災は専門家の問題ではなく、県民一人ひとりの問題であり、そのことをちゃんと理解してもらうためにも、学校教育でこの問題を継続的に取り上げていくことが必要だと思う。
- 格差の問題が国際的な問題になっている。単なる経済格差だけでなく生活の格差、文化の格差など、片一方のところに偏っていることが問題なのだと思う。全体的なグローバルな所から見ると、そのままになってしまっている。格差社会というものをどのように克服していくのかということを考えないといけない。
- 県民スポーツについては国体開催時に非常に盛り上がったと思う。大きなスポーツイベントは参加者や観客が多く、県内に宿泊したり、観光をして帰ったりと波及効果も大きいので、久住のマラソン大会や別大マラソン等を活用していく取り組みが必要。
- 結核は過去の問題だと思っている国民が多いが、実は日本はまだ中蔓延国であり、先進国で低蔓延国でないのは日本だけ。まだ結核は毎年発生しているので対策をしっかりしないとイケない。